

1 学校として目指す授業

学力の定着と学習意欲の向上に向けて、誰にでもわかる授業づくりを目指す。

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、「読むこと」の領域において、国との差が開いており、課題がみられる。また、問題の最後まで解答できなかった児童も目立つ。 ・算数では、全国平均正答率を全体的にはやや上回っているが全国や都と比較して大きくポイントを下げている問題が、2つの量を比べる等の少し複雑そうに見えるものや、問題の文章量が多いものであった。 ・国語、算数共に、少しチャレンジしたり少し丁寧に読んだりしたら解答できる問題に取り組めておらず、粘り強さにも課題がある。	・「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問に対しては「あまり思わない」と回答する児童の割合が多い。 ・「読書は好きですか」「国語や算数の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対しては、肯定的な回答をする児童が全国より低い。 ・分からなかったらすぐに諦めてしまう児童が多く見られるので、主体的に学習に取り組もうとする意識を高めていく必要がある。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

4年生は、国語、社会、算数、理科の理解における肯定的意見が児童の80%以上である。一方、約30%の児童がどこで間違えたかを考えたり、文章を理解したことや考えたことなどを他の人に説明したりすることが苦手だと感じている。学習に対して意欲はあるのでその意欲を大切にしながら、間違えの修正や、友達への説明方法等が学べる活動や指導をしたい。
5年生は、学習する理由の結果から、学習する理由を将来のために肯定的に捉えたり、友達に負けたくない等自分なりに学習への必要感をもったりする児童が多い。一方、自分の考えを他者に伝えたり、他者と比較したりすることに対して肯定的に答えた児童が半数以下であった。自分の意見や考えを他者に伝える時間を意図的に設定し、友達とともに学びを深めていくことを実感させ、進んで協働的に学習に取り組む児童を育成していく必要がある。
6年生は、分からないときは、ほかの人や先生に質問して解決しようとする当てはまるとした児童の割合が最も多かった。しかし、学習していて分からない言葉があればすぐに調べるという児童の割合は最も少なく、楽に解決しようとする意識が感じられる。授業では、友達と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っているとする児童の割合が最も多く、グループ学習の成果と言える。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語、算数共に「知識・技能」、「思考・判断・表現」の観点において、清瀬市の平均を上回る結果となった。特に、算数の「知識・技能」においては、市平均より6.5ポイント上回った。数と計算においては、反復練習が結果に繋がってきていると考える。
・教科別に見ると、国語は「書くこと」の領域で市平均を下回っている。これは、説明文の読み取りや、文章の要約をすること等に苦手意識をもっている児童が多いからである。算数は、「データの活用」が市平均を大きく下回った。総じて、漢字の読み書きや計算については力がついてきているが、読み取りについては課題がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストの結果では、体育の授業中には、友達と一緒に活動する中で、友達の動きや取り組みを参考にしている児童が多く、それが運動への達成感や体育の授業の楽しさにつながっていた。 ・東京都小学校道徳部による3年生以上へのアンケートでは、自分のことが好きな児童が多く、特に明るく前向きなところが好きだと思っている児童が多くいることがわかった。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・低学年の基礎・基本の問題（たしざん・ひきざん・ひらがな・カタカナ）でつまづいている児童がおり、自信がなく授業にも受動的で、学ぶことから遠ざかりがちである。
・中高学年では、問題の文意やイメージを捉える力が低く、未解答が多い。文章や問題をよく読んで理解できるように粘り強く考える力が必要がある。
・自信のなさから、学習課題に対して消極的になりがちだったり、最後まで粘り強く取り組めなかったりする児童が多く、様々な学習経験を通して達成感が得られるようにする必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

基礎・基本の反復と、問題解決のために考えを深めたり広げたりと主体的に取り組める学習活動の設定

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・平仮名、片仮名、漢字の習得における反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり友達と意見を交流する場面を取り入れたりする。	◎			反復により基礎・基本の定着を図り、学習のめあてを自分たちで設定できるようにする。	○			日常生活と学習活動を結び付け、自分の考えを表現する時間を積極的に設定する。	◎	知識・技能の定着のために、スモールステップで繰り返し学習する活動を積み重ねる。	◎	描く・作るを基本として、表現する楽しさを味わえるようにいろいろな活動を体験させていく。	◎			学習のめあてを自分たちで設定し、できるようになったことを振り返って全体で共有する時間を設定する。	○			自分の考えを表現し、友達と議論する時間を設定することで学びを広げられるようにする。	○
中学年	・漢字の反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり、話の中心に気を付けて聞き、質問や感想を述べる時間を取り入れる。	◎	単元の学習後自分は何ができるかを考え学んだ事象について主体的に行動できるようにする。	◎	既習事項を基に自分の考えを言葉や図、式等で表現し、伝え合う場面を設定する。	◎	自然の事物・現象の変化と要員を関係付けて、予想し観察や実験を行う。	◎			他者との学び合いを通して、自らの音楽表現や考えを広げていくような活動を取り入れる。	○	基礎・基本の習得のため、繰り返し学習を行えるように活動を設定する。	◎			学習カードを活用し、児童が自分のめあてをもって活動し、振り返りを共有することで、友達の良いところや、改善点などを見つけられるようにする。	○			登場人物の気持ちになって考えることで、道徳的な価値について素直に気持ちを表現できるようにする。	○
高学年	・漢字の習得における反復練習の期間を十分にとる。 ・文章を繰り返しよく読んだり、グループ内で意見交換して自他の考えの相違点を理解し自分の考えを深める場を適宜設定する。	◎	学習課題の予想をすると共に、調べたことをグループ内で発表し合う場を設定し、理解を深める。	◎	既習事項を基に自分の考えを表現し、ICTを活用して考えを共有する活動を積極的に行う。	○	予想を基に学習を進め、結果から分かったことを友達同士で深め合う活動を取り入れる。	◎			既習事項を次の学びに生かしながら、主体的に学習できるようにする。	◎	既習事項を生かしたり、自分なりの表現を試したりする活動を設定する。	◎	学習したことを日常生活に活用する機会を多く設定する。☑	○	各時間の学習でのめあてを明示し、達成できているかどうかを見て、考えて、判断して、友達に伝え合う活動を設定する。	◎	自分の伝えたい内容について既習の内容を生かして考えて、友達と表現し合う活動を設定する。	○	読み取り問題にならないよう、自分のこととして捉えられるようにする。	◎